



—学校・保護者・地域とともに子どもたちの未来を創造する—

教育委員会だより

「住むんだったら」「学んだったら」「教えるんだったら」つがる市がいい！

第15号

令和8年2月

つがる市教育委員会

教育長 あいさつ

正直さと素直な心

つがる市教育委員会 教育長 山谷 光 寛



令和8年が始まりました。この教育委員会だよりが皆さんの手元に届くのは2月に入ってからでしょうか。(この原稿は1月中旬に作成しました。)午年の令和8年が皆さんにとって、充実感に溢れ、満足のいく1年となることを祈念しております。

昨年は本市が誕生して20年の節目を迎えた1年となり、様々な行事が開催され、子どもたち、保護者、関係者、教職員の皆さんからたくさんのご協力をいただき、お祝いすることができました。心より感謝いたします。

今年からは、次の10年、20年に向けて、我が国そして本市の将来の担い手である子どもたちが様々な形でそれぞれの能力を伸ばしていくことを目指して、より一層充実した教育活動を展開できるように努めてまいります。皆様方からのご理解・ご支援と、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて世の中を見ますと、ここ数年不安定な世界情勢が続いています。昨年からはそれが一段と顕著になり、不確定で、私たちがこれまでに経験したことがない、予測が難しい世界となっています。

多くの方が先を見通せない世の中に一抹の不安感を抱いているのではないのでしょうか。

このような時に大切なことは、「わからないことを知る」、「今は何が大事なのかを知る」ということです。そして、今、自分ができる最善の策を考えて行動する力が必要になってきます。

また、周囲にいる人たちが持っている力を見出し、お互いに協力しながら新しい価値や問題の解決策を生み出していく、集団としての力が重要となります。

もちろん大人ばかりでなく子どもたちも、これらの力を身につけていくことが大切です。

本市の小中学校では、「学ぶことは知識量を増やすのではなく、自分を刷新すること」を意識し、日々の教育活動を通して、また質の高い探究的な学びを実現して、子どもたち個々の力を伸ばすように努めてまいります。

子どもたちが成長する上で土台となる、「正直さと素直な心」を大切にしながら、今年も「すべては子どもたちのために」を合言葉に、我々大人が力を合わせてまいりましょう。

詳細版は WEB でも閲覧できます

= 詳細版の掲載内容 =

- 教育長 あいさつ
- 今年度の取組の成果
- 本市の児童生徒の学力等の状況

※スマホ、タブレット等から御覧いただけます

今年度の取組の成果

教 育 総 務 課

■今年度の主な取組みについて報告します。

○学校施設の整備

・天井や外壁などの非構造部材の耐震点検を実施しました。(実施校;向陽小、穂波小、瑞穂小、木造中)

○教育施設の充実

- ・1人1台のタブレット端末は耐用年数を超えるため、全小・中学校全員分の端末を更新しました。
- ・学校での ICT 環境最適化のためネットワークアセスメントを実施し、インターネット回線の改善に取り組みました。(実施校;向陽小、木造中)
- ・児童生徒の不適切なサイトへのアクセス防止のほか、使用時間を管理するためにフィルタリングを導入しました。

○安全安心で豊かな教育活動の推進

- ・小学校 4 年生から中学校 3 年生までの全員を対象に 3,000 円を上限として、自転車用のヘルメット購入費を助成しています。ただし、2 年目となる令和 8 年度からは小学校新 4 年生と中学校新 1 年生に限定されますのでご注意ください。
- ・例年同様、スクールサポーター(支援員)30名、英語指導員1名を配置しました。
- ・県の交付金を活用し、小中学校の給食費無償化事業を前年度から引き続き実施しています。

○学校における働き方改革の推進

・学校閉庁日を 4 日から 5 日に拡充したほか、毎月隔週水曜日を午前授業としました。

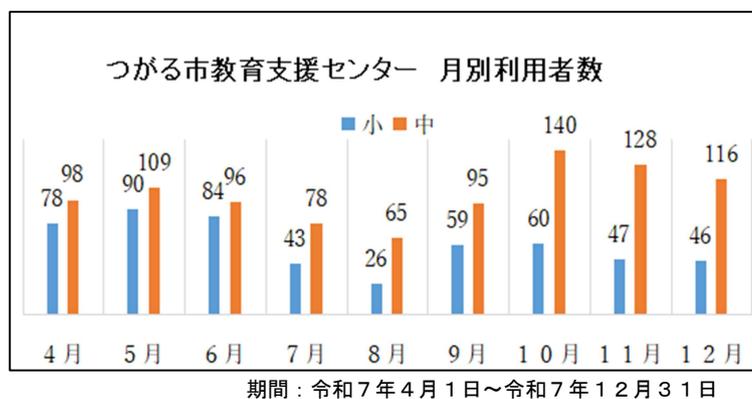
指 導 課

■つがる市教育支援センターについて

令和7年度 12 月末の長期欠席者の状況は、本市小中学校において 10 日以上欠席した人数が小学校 88 名、中学校 74 名となっています。その中でも 30 日以上欠席者は小学校 18 名、中学校 38 名となっています。

本市教育委員会では、市生涯学習交流センター「松の館」に、つがる市教育支援センターを開設しており、何らかの事情で学校に通えない児童生徒のために、通所支援を行っております。

通所支援では、センターに通所している児童生徒に対して、教育相談や支援活動を行うことにより、集団適応力や生活意欲を高め、学校への再登校や社会的な自立を目指して支援しています。現在、7 名の教育相談員が、毎日 4 名体制でシフトを組んで支援を行っています。センターでは自学自習を基本としており、通所している児童生徒は各自が設定した課題に取り組み、求めに応じて教育相談員が支援を行っています。今年度 12 月末時点で、延べ 1458 名の利用者数となっています。



◇文部科学省の不登校対策「COCOLO プラン」では次のように示されています。

- ① 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える。
- ② 心の小さな SOS を見逃さず、「チーム学校」で支援する。
- ③ 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする。

本センターも、学校と協力しながら、子どもの居場所になるよう、今後も運営してまいります。

社会教育スポーツ課

■今年度の主な取組みについて報告します。

○中学校部活動の地域展開への取組み

国の方針及び社会情勢の変化を踏まえ、部活動の地域展開を段階的かつ計画的に推進するため「つがる市部活動の地域展開推進計画」を取りまとめました。また、一定の基準を満たしたクラブを中学校部活動の受け皿として認定し、地域クラブ化を推進しました。

令和8年1月末現在のつがる市認定地域クラブ

今後も地域クラブ化を推進します

| 競 技 | 認定地域クラブ | 練習拠点 |
|----------|-------------------------------|--------|
| バスケットボール | HIVE.basketballclub U15 (ハイヴ) | 木造地区 |
| | Rural. B. C (ルーラル) | 柏地区 |
| | SLASH (スラッシュ) | 森田地区 |
| 野 球 | Tsugaru Nova BBC(ツガル ノヴァ) | 森田地区 |
| サッカー | TATEOKA FOOTBALL CLUB | 木造館岡地区 |

○学校開放事業の取組み

学校開放事業とは、スポーツ活動・社会教育活動の場として、学校教育に支障のない範囲で、学校施設(体育館及び校庭)を地域住民に開放する事業です。

今年度は、学校開放校を市内10校(柏中、森田中を除く)へ拡大し、30団体(スポーツ団体や社会教育団体)に利用されております。 ※利用を希望する団体は、教育委員会の認定を受ける必要があります。

文 化 財 課

■縄文遺跡群の整備・活用について

世界文化遺産の亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚には、4月から11月の間に約8,000名の方が訪れ、遺跡ボランティアガイドの案内などを通じて遺跡の価値や魅力を知っていただきました。以下に縄文遺跡に関する主な取組みについて報告します。

○史跡整備の推進

亀ヶ岡石器時代遺跡とガイダンス施設の整備計画を具体化するための設計業務を現在進めています。このほか、亀ヶ岡石器時代遺跡では10月から整備工事に着手し、縄文の景観づくりのために不要な樹木を部分的に伐採しました。亀ヶ岡石器時代遺跡の整備工事は、令和8年度以降も継続して実施します。

○遺跡でのイベント開催

両遺跡の活用のため、NPO法人つがる縄文の会や木造高等学校と連携して「2025 Jomon Fes. 亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚まつり」を9月に開催しました。民間団体のご協力によりクラフト・飲食ブースが設けられ、多くの参加者でにぎわいました。遮光器・ミニ石斧・勾玉づくりにも多くの小・中学生がチャレンジしました。

○夏休み体験講座の開催

小・中学生を対象とした夏休み体験講座(縄文遺跡クイズラリー・たごやの貝層パフェづくり)を8月に開催しました。クイズラリーの参加者は、縄文遺跡PRキャラクターのカイトくん・タマキちゃんにちなんだクイズに回答しながらカードを集め、遺跡に親しみつつガイド活動も体験しました。たごやの貝層パフェづくりの参加者は、お菓子づくりを通じて貝層の成り立ちや縄文時代の暮らしについて理解を深めました。

本市の児童生徒の学力等の状況～令和7年4月に実施した全国学力・学習状況調査から～

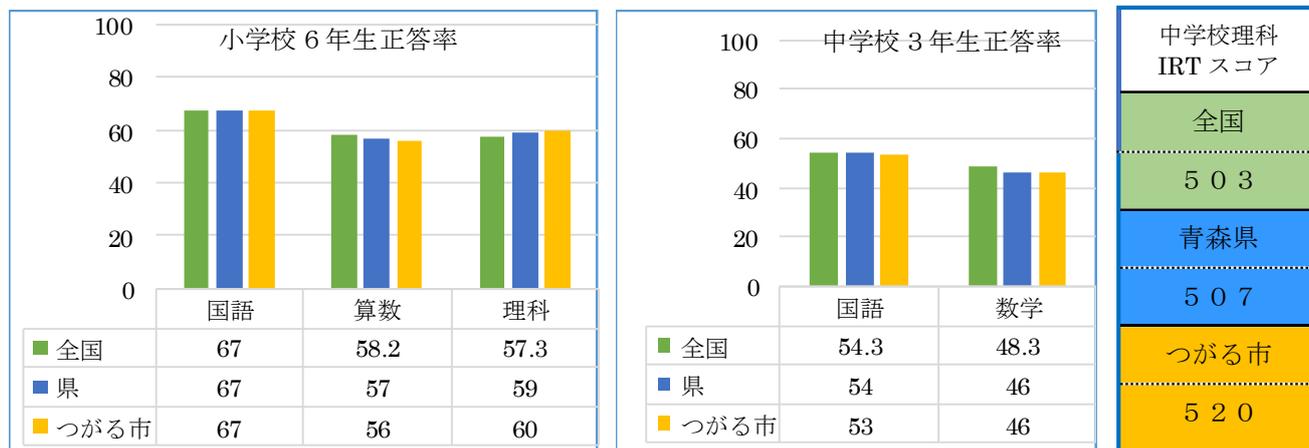
本市では、子どもたちの学力の向上を目指し、市全体で様々な方策を掲げ取り組むと同時に、各学校においても子どもたちの実態に合わせて、きめ細かな指導を継続しています。

【テストの概要】

小学校6年生を対象に、国語、算数、理科、質問調査。

中学校3年生を対象に、国語、数学、理科、質問調査。

【結果】



県や全国と比べると、本市は小学校の国語では同程度、算数はわずかですが下回る結果、理科に関しては上回る結果となりました。中学校の国語、数学に関しては、わずかですが下回る結果、理科に関しては、比較的大きく上回る結果となりました。(中学校理科については、正答率ではなく、「IRT スコア」というもので結果が示されました。これはテストの難易度に左右されることなく学習の到達度を客観的に捉えることができるので、経年の変化を正確にとらえることができます。)以下は課題と傾向です。

○国語

小学校：一つの文章の理解に留まらず、図や文など「複数の資料を関連付けて読み解く力」に課題があります。今後は、必要な情報を探し出し、自分なりに整理して理解する学習が重要です。

中学校：自分の考えを述べる際、「客観的な事実を根拠に示すこと」が課題です。実用的な資料から情報を引用し、理由を筋道立てて説明する力を育てる必要があります。

○算数・数学

小学校：計算の理由や手順を、言葉や図で説明することに課題があります。今後は、グラフ等から情報を選び、平均などの概念を生活に活用して判断する力を高めることが求められます。

中学校：「数学的な根拠で考えの妥当性を説明すること」が苦手な傾向にあります。データや図形の性質をもとに、他者の意見を吟味したり間違いを修正したりする力の育成が必要です。

○理科

小学校：実験結果をこれまでの学習と結びつけて考察することに弱さがあります。「条件制御(変える・変えない条件)」を整理し、データの規則性を言葉で説明する力を付けることが課題です。

中学校：複数の情報をもとに、根拠をもって論理的に説明する力に課題があります。目に見えない現象の原因を考えたり、それを確かめるための実験を計画したりする力を育てる必要があります。